

クマタカ（タカ科） 全長オス72、メス80センチ

毎年初冬を迎えるころ、ナダラと呼ばれる急斜面にクマタカが飛来します。

雄物川、玉川合流点周辺はオジロワシやオオタカ、ハヤブサなどがたびたび現れることから、猛禽類の観察ポイントとして隠れた人気があります。

クマタカは絶滅危惧種1類に指定され、数も少ないことから滅多に見られませんが、雄物川から立ち上がる急斜面は、猛禽類に都合の良い所なのでしょうか。



12月26日に飛来した若鳥。お腹が白っぽいので区別されます。

クマタカが現れたのは、オジロワシが止まり木として利用する場所から数十メートルしか離れていない枝でした。丁度この時オジロワシは餌を探しに出かけたのでしょう、姿は見えません。飛来したクマタカは若鳥です。

過去5年間、このナダラに現れたクマタカは何れも若鳥であったが、なぜだろうかと思いを巡らしています。県内の生息地は、主に奥羽山脈の人間が滅多に近づくことがない山奥です。ダム建設に伴う環境影響調査により、営巣地が見つかったことがたびたび報道されてきました。



背中の羽一枚一枚の縁取りが白いので、まだ成鳥になっていません。



姿勢を低くして獲物を狙っているようです。

昔は県南部の東成瀬村や羽後町などで、クマタカを飼いならしウサギ狩りなどで生計を立てていた鷹匠が数十名もいた時代がありました。鷹匠は、生まれて間もない雛を巣から取り出し、狩りに順応できるようにするまで苦労して育ててきました。

しかし、法律等の改正により雛の捕獲・飼育が禁止され、自然保護か伝統保存かで注目されましたが、時代の流れに抗うことが出来ずに全ての鷹匠は廃業してしまいました。



こちらは2012年南外村で撮影した成鳥。目の周辺が黒っぽいのと、胸から下には横縞が見えます。



鋭い顔つきには風格が漂います。